

令和5年度 第1回南アルプス市地域公共交通会議議事録

日時：令和5年5月11日（木）

午後1時30分から

場所：南アルプス市地域防災交流センター
2階 多目的ホール

出席者

委員：17名（欠席3名）

アドバイザー：鈴木文彦

南アルプス市：内田市民部長、松下市民活動支援課長、時田上下水道局総務課長、
橿形西地区コミュニティタクシー事務局

次第

1. 開会	- 1 -
2. 経過説明	- 1 -
3. 委嘱状交付	- 1 -
4. 市長あいさつ	- 1 -
5. 委員及び事務局自己紹介	- 2 -
6. 役員選出	- 2 -
7. 会長あいさつ	- 3 -
8. 議事	- 4 -
(1) 地域内フィーダー系統確保維持計画について	- 4 -
(2) 南アルプス市コミュニティバス事業について	- 4 -
(3) 橿形西地区コミュニティタクシー「そよかぜ号」運行について	- 4 -
(4) 南アルプス市営バス事業（広河原⇄北沢峠線）の休止について	- 7 -
(5) 地域公共交通計画の策定について	- 8 -
(6) その他	- 8 -
9. 講評	- 9 -
10. 閉会	- 10 -

1. 開会

《 事務局 》

みなさん、こんにちは。令和5年度第1回南アルプス市地域公共交通会議を開会させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。

本日の会議の進行をさせていただきます市民活動支援課の松下と申します。よろしくお願いいたします。

2. 経過説明

《 事務局 》

この会議は、これまで南アルプス市地域公共交通活性化協議会として設置・運営されておりました。この協議会につきまして、法定協議会である南アルプス市地域公共交通会議として改めて設置させていただくものであります。この会議では本市の公共交通に関する協議の他、今年度は南アルプス市地域公共交通計画の策定も予定しております。

本会議の委員の任期は2年間で、令和5年4月から令和7年3月末までとなっております。

3. 委嘱状交付

《 事務局 》

今回は会議の発足にあたり、委嘱状又は任命書の交付をさせていただきます。委員を代表いたしまして、一般社団法人山梨県バス協会の専務理事でございます篠原勇様に委嘱状の交付を行います。金丸市長、よろしくお願いいたします。

(委嘱状交付)

その他の委員の方については時間の都合上、各席に委嘱状又は任命書をお配りさせていただいております。ご了承お願いいたします。

4. 市長あいさつ

《 事務局 》

次に、市長よりごあいさつを申し上げます。金丸市長お願いいたします。

《 市長 》

皆さん、こんにちは。南アルプス市長の金丸でございます。

本日はお忙しい中、第1回地域公共交通会議に、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、委員の皆さまには、本市の公共交通の確立のため、平素より、格段のご理解とご協力をいただきまして、改めて感謝を申し上げます。

先ほど、会の発足にともない、20名の方に委嘱、任命させていただきました。本会議は公共交通について、専門的な見地から、また、安全性や利便性について、利用者や地域住民の視点から、建設的なご協議をいただき、本市のコミュニティバスの運行等に反映し

ていくための重要な会議であります。

これまでの南アルプス市地域公共交通活性化協議会を南アルプス市地域公共交通会議へと移行し、まちづくり、医療、福祉、観光振興などの多様な観点から本市における公共交通の在り方を協議いただく中で、今年度は新たに地域の移動ニーズにきめ細かく対応する「南アルプス市地域公共交通計画」の策定をお願いするところでございます。

本市においても、超高齢社会を迎え、免許証の自主返納等により交通弱者が増加していることから、市民が安心して生活できる環境を維持するためにも公共交通の果たす役割は重要となっております。

こうした中、本市のコミュニティバスにつきましては、地域の実情に合わせ、効率的かつ利便性の高い公共交通を目指すとともに、民間路線バスや鉄道、タクシーなど、他の公共交通と連携及び補完をする中で、活用することが重要であると考えております。

今後も委員の皆さまのご意見を踏まえながら、利用しやすい公共交通を目指して継続的に改善を図り、地域交通の活性化を推進してまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

本日は、よろしく願いいたします。

《 事務局 》

ありがとうございました。

市長におかれましては、この後、他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。ご了承をお願いいたします。

5. 委員及び事務局自己紹介

《 事務局 》

次に、次第**5番**になります。委員および事務局の自己紹介を行います。順番に自己紹介をお願いいたします。

(委員、事務局自己紹介)

ありがとうございました。

6. 役員選出

《 事務局 》

次に、次第**6番**の役員選出になります。

会長につきましては、資料22ページの南アルプス市地域公共交通会議規約案の第8条第1項により委員の互選により選出するとございます。ちなみに令和4年度までの地域公共交通活性化協議会については副市長が会長を務めておりましたが、皆様いかがいたしましうか？

(事務局一任)

ありがとうございます。それでは南アルプス市地域公共交通会議の会長は内田副市長にお願いいたします。

引き続き、副会長の選出を行います。副会長につきましては規約第8条第3項により委

員の内から会長が指名するとあります。内田会長、いかがいたしますか？

《 会長 》

副会長については、本日まで出席いただいております一般社団法人山梨県バス協会の篠原様をお願いしたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか？

(異議なし)

《 事務局 》

ありがとうございます。それでは、副会長については篠原勇様をお願いいたします。

次に、規約第10条第1項に基づき監事の選出を行います。1名については南アルプス市会計管理者とございます。あと1名についてはいかがいたしましょうか？

(事務局一任)

それでは、南アルプス市自治会連合会会長でございます三枝守和様をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

7. 会長あいさつ

《 事務局 》

続きまして、次第7番の会長あいさつです。内田会長お願いいたします。

《 会長 》

皆さん、こんにちは。

ただいま、会長に選出されました内田です。よろしくをお願いいたします。

主旨につきましては、市長があいさつの中で申し上げたとおりでございます。本日の会議につきましては、地域の移動手段の確保について、交通事業者や住民などの地域関係者、皆様と協議する場となっております。今回は地域の実情に即した地域公共交通計画を今年度中に策定するという大きな目的があります。

地域における移動手段の維持・確保につきましては、交通分野の課題解決を図ることによって、南アルプス市全体のまちづくりに非常に大きく貢献する計画となると思います。委員の皆様やアドバイザーの先生のご意見もいただきながら、今後持続可能な地域公共交通計画の策定を目指してまいりたいと考えております。

本日も議題がいくつかありますが、委員の皆さまの活発なご意見をいただく中で会議をスムーズに進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いいたします。私のあいさつとさせていただきます。

《 事務局 》

ありがとうございました。続いて議事に入ります。

会議の議長については、規約第11条により会長が議長となることとなっておりますので、内田会長お願いいたします。

8. 議事

(1) 地域内フィーダー系統確保維持計画について

《 会長 》

それでは、次第に則って進めたいと思います。

第1号議案 地域内フィーダー系統確保維持事業について、事務局より説明をお願いいたします。

《 事務局 》 資料 1～11 ページ説明

《 会長 》

事務局の説明がおわりました。議事(1)について、ご意見、ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

それでは議案(1)地域内フィーダー系統確保維持事業について、ご承認につきましては、拍手をもってお願いいたします。

(2) 南アルプス市コミュニティバス事業について

《 会長 》

次に第2号議案 南アルプス市コミュニティバス事業について、事務局より説明をお願いいたします。

《 事務局 》 資料 12～15 ページ説明

《 会長 》

事務局の説明がおわりました。少しずつでも効果が上がっているということでご理解をいただきたいと思います。議案(2)について、ご意見、ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

ご質問がないようでしたら、拍手をもってご承認をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(3) 楡形西地区コミュニティタクシー「そよかぜ号」運行について

《 会長 》

次に第3号議案 楡形西地区コミュニティタクシー「そよかぜ号」運行について、楡形西地区コミュニティタクシー運営委員会の小野様（以下、運営委員会）より説明をお願いいたします。

《 運営委員会 》 資料 16～17 ページ説明

《 会長 》

運営委員会の説明がおわりました。議案(3)につきましては、皆様のご意見を伺ってご承認という形ではございませんので、ご意見、ご質問がございましたら挙手をお願いいたし

ます。

《 委員 》

そよかぜ号の運行状況はどのようにまわっているのか、おしえていただきたい。

《 運営委員会 》

そよかぜ号は、あやめが丘を出発して田頭、平岡、上市之瀬、中野、上野、下市之瀬の順に回りまして、小笠原地内の希望地へお届けするというごさいます。帰りはここで乗るといふ方はお迎えに上がりますし、待合所で待っている方はそこから乗っていただいて、自分の家までお届けするという形で運行しております。

《 会長 》

説明がありましたように、地域の方が自分たちで積極的に乗車計画とか積極的に関わってくれているからこそ、運営ができていふコミュニティタクシーだと思っております。当然、会員も会費を払っていただいております。

《 委員 》

今のコミュニティバスの状況を見ていると、人が乗っていない状況が多い。金銭等いろいろ問題もあるだろうが、そよかぜ号のように地域の方たちが積極的に利用できるようにした方がよい。

開始当初から利用者は増えているが、空気を運んでいるように思われがちなコミュニティバスの現状を解決していただきたい。デマンドのような形で地域住民が戸口から戸口へと利用できればありがたい。今後高齢化社会で免許返納者が多くなると思ふので、継続してもっと利用価値の高い運営を市にも考えていただきたい。よろしくお願ひします。

《 会長 》

今、委員からご質問のあった点について、デマンド方式についても市で検討した経過等、地域に働きかけた経過を含めて簡単に説明してください。

《 事務局 》

運営委員会からご説明がありましたように、そよかぜ号の方式が理想的だと、自分たちのバスは自分たちで育て継続させていくことが理想だと、令和3年度末に各自治会長様宛に公共交通手段について説明させていただきたいとご案内をしながら、2か所の自治体に対して説明をいたしました。運営委員会の努力により順調に回っている運営委員会を新たに立ち上げるといふのは大変なことだといふことで、その方式については導入が難しいことがわかっております。コミュニティバスにつきましても、認知がされてきたといふことで昨年の10月から今年の9月までには、7万人を超えてくる見込みでございます。ですので、コミュニティバスをブラッシュアップさせながら存続させていって、今後策定する計画の中でデマンド方式であるとか、乗り合いタクシーであるとか、その地域の実情に合っ

た交通手段を、見識のある皆様の意見を聞きながら導入をしていきたい。それにつきましては、先ほど経費の点で心配いただきましたけれども、なるべく経費負担を少なく、ニーズと合うものをうまく選べれば、そういったものを取り入れて現在の交通空白地域の解消を図っていきたいと考えておりますので、ぜひ、計画策定の際にはご意見をいただいて良いものにしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

《 会長 》

事務局から説明がありましたように、中々努力をしながらも難しい点はあるけれども、今年度改めてこの会議をもって、新しい公共交通計画を策定していく中で、少しでもできるものを見つけていながらということになるかと思っておりますので、また皆様からご意見をいただく中で、できれば交通計画の中で検討した結果が反映していくのかと思っております。

《 委員 》

そよかぜ号の総事業費が 550 万円くらいになっていて、地元負担金は 140 万円程だとお話されていましたが、地元の収入の貢献は 70～80 万円だということで、差額は地元が負担していると思うのですが、地域の皆さんの理解の上で負担金が生じているのか、どういう形で徴収しているのか、デマンド方式にするということは、地元の方たちの理解、ある程度の金銭的な支援がないと、補助金だけで運営するというのは困難であると思っておりますが、どのような理解、支援をいただいているのか具体的にわかるのであれば、おしえていただきたい。

《 運営委員会 》

全部補助金で賄うと市におんぶにだっこになってしまう。自分たちでより良いものを求めるのであれば、みんなで一緒にやっていく。そこで私は地区全戸の方にサポーターになってくれとお願いをしています。200 人ほどのサポーターが毎年協力していただきまして、賛助をいただいて賄っているのが実情です。

私ども楡形西地区は 2,000 人ほどの人口で、予約の方法が非常に簡便であります。これをもっと大きくなると、予約方法にお金がかかってしまいます。ですので、一概にデマンドがすべて良いとは言えません。

また、お年寄りはいせいで 200m くらいしか歩けません。荷物を持てばもっと歩けなくなります。そういうことを考えると、私は交通手段だけではなく、福祉として考えるべきだと、「西地区の皆さん、明日は我が身だ」ということで協力してくれています。以上です。

《 委員 》

西地区の皆さんの応援サポーター制度、素晴らしいと思います。

《 会長 》

これだけ長く定着してくれているのは素晴らしいことだと思います。行政の支援とセッ

トで、ということになると思いますが、そういうことも含めて、他にデマンドができる地域があるのかとか、何年もまたいでいますけれども、行政からも地域への働きかけを続けながら、改めて新しい計画をという考えになります。

(4) 南アルプス市営バス事業（広河原⇄北沢峠線）の休止について

《 会長 》

次に第4号議案 南アルプス市営バス事業広河原～北沢峠の休止について、承認案件ではありませんが、南アルプス市上下水道局総務課時田課長（以下、上下水道局）より説明をお願いいたします。

《 上下水道局 》 資料 18 ページ説明

《 会長 》

上下水道局の説明が終わりました。議案(4)について、ご意見、ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

《 委員 》

市営バスの広河原―北沢峠線がここ数年運休しているということですのでございますけれども、以前は私も夏場のシーズンに甲府方面から広河原方面まで登山バスを運行させていただいておりますけれども、このお客様のほぼ半数は、広河原で北沢市営バスに乗り継いで南アルプスの方に下山されたお客様でございます。昨年あたりもその以前の半数のお客様は当然、当社のバスにもお乗りいただけてないわけですが、これらのお客様は現在長野県の伊奈市側から入山されているということになっておりまして、これだけ山梨県側のお客様が減っておりまして、山梨県の観光振興のためにも、ぜひ北沢峠線の復旧、実際事業を行っているのが林野庁と山梨県だとは思っておりますけれども、南アルプス市の方でも開通に向けてご尽力、働きかけをよろしくをお願いいたします。

《 会長 》

ありがとうございます。非常に大事なご意見だと思います。広河原という観光地に新しくペンションを作りましたけれども、（広河原より）その先がないということのなかで、利用にも影響が出ているということを知っています。崩落箇所の工事が進まないというより、崩落が止まっていないようです。ですから、当面の間というより、数年内という話ができない。極端に言うと新しいルートを作らなければならないのではないかという話も出ている状況ではないかと思います。しかし、南アルプス市にとってはとても大事な観光ルートでありますので、山梨県に積極的にお願いする中で、進めていかなくてはいけない大事な話だと思います。

南アルプス市としても積極的に前向きになんとかしたいということになると思いますので、努力をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(5) 地域公共交通計画の策定について

次に第5号議案 地域公共交通計画の策定について、事務局より説明をお願いいたします。

《 事務局 》 資料 19～27 ページ説明

《 会長 》

事務局の説明が終わりました。規約、条例、予算案が説明されたということは、このプロポーザル契約は市の予算直営で執行するのではなくて、市からお金をいただいて交通会議の中で予算を執行していく、プロポーザルをして計画策定の業者を選んでいきますよ、という説明であります。プロポーザルの様式の中に日程等のプロポーザル実施要領が含まれております。タイトな計画の中で、事務局からの説明によりますと、20人の委員の中で業者を選定できませんので、アドバイザーの鈴木先生を含めて数名の選考委員を事務局で選出をさせていただいて、業者から出てくる提案材料を審査させていただいて、計画を策定していただける事業者を選定していきたいという説明だと思います。大きな予算がかかっておりますので、議論していただきたいと思います。議案(5)について、ご意見、ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

《 委員 》

事務局で選定する選考委員は委員も含め、事前に公表されますか？

《 会長 》

選考委員はアドバイザー含め委員の中から5人ほど選ばせていただいて、委員方にはこの方たちで、この業者を選定しましたよということをお知らせしたいと考えております。今この場で発表という形ではなく検討させていただいて、必ずおしらせいたします。

それでは議案(5) 地域公共交通計画の策定について ご承認につきましては、拍手をもってお願いいたします。

ご承認をいただきました。ありがとうございます。

(6) その他

《 会長 》

次に第6号議案 その他について皆さんから何かご意見等ございますか？
その他のご意見がございませんので、議事につきましては以上で終了とさせていただきます。事務局にお返しいたします。

9. 講評

《 事務局 》

ありがとうございました。

次第の9番、講評をアドバイザー鈴木先生からいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

《 アドバイザー 》

交通ジャーナリストの鈴木でございます。これまでの事業のご説明、コミュニティバス、コミュニティタクシーそよかぜ号についての経過報告がございました。

今まで南アルプス市のコミュニティバス事業については、運行開始以後、比較的他の市町村に比べますと、かなりその都度、利用状況なり、動向を見ながら改良を加えてきております。そういう点では、非常に熱心に利用促進等も含めて議論をしてきたケースだろうと思います。ただ、その結果として増えているとはいっても、まだまだ利用がそんなに多い方ではない。空気を運んでいるというようなご意見もございましたけれども、実際この数字を見ても、決して多い数字とは言えないというところであります。

この地域公共交通計画というのは、各自治体の国の制度の中での努力義務といいますが、基本的には設置、設定をしてくださいという話なんですけれども、当然その地域の中でのコミュニティバスをどうしていくのか、それから、基幹となっている山梨交通の路線バスを含め、公共交通をどうネットワークを作り、維持をしていくかということが、議論の対象になるわけなんですけれども、この中でコミュニティバス事業については、これまでの経過等踏まえながら、もう一度位置付けをする必要があると感じております。きめ細かく運行されているという点はあるんですけれども、今後南アルプス市の交通空白地域を更にきめ細かく結ぶのが正しいのかどうか、この辺についてはきちんと議論をしていただいて、コミュニティバスの果たすべき役割と、更に別の事項を組み合わせながらいく必要があるかもしれない。この辺のところを皆さんのご意見を伺いながら、切り込んでいく必要があるのではないかと考えております。南アルプス市のコミュニティバスは、全国的な規模から見ると、結構長いし、一つの生活圈の中を巡回するようなタイプではなくて、地域間をつなぐような運行がなされています。特に駅のない市ですので、駅を結ぶ路線は特にその性格が強いです。今後の考え方として、山梨交通が運行しているバス路線を一番太い幹としてとらえて、それを結んでいる毛細血管ではなく、比較的枝ぶりの良い枝ぐらいのところにコミュニティバスを位置付けていった方が、この南アルプス市コミュニティバスの本領を発揮できるようになるのではないかと気が私にはしております。

では、生活に近いところの交通をどうするかという話になってくるわけなんですけれども、私の理想はそよかぜ号だと思っていてまして、そよかぜ号は全国的にも非常に先進事例になる取り組みだと思っております。運営委員会の小野さんにもお世話になりまして、現地も見せていただきましたけれども、地域の皆さんが、自分たちが関わり、作り、育ててきた、そういうものです。これは非常に大切なことで、これからもできればこういった形態で地域の中での、いわゆる生活圈の中の交通については、つくり育てる形が望ましいと思うんです。先ほど話がありましたように、簡単な話ではない、これまでそういう交通でなくて

も何らかの形でおこなってきた地域であれば、足がかりがあるのかもしれませんが、何もなかった地域でいきなりこの形というのは非常に厳しいと思われます。どこでも同じ形のできるものではないということから言いますと、何らかの形で地域の生活圏の中の交通手段を、地域で取り組み、作っていくような仕組みづくりのためのガイドラインを、地域公共交通計画と同時に作っておいて、それはある程度門戸を広く、楕形西地区方式に限らない、いろんなかたちを想定した中で作っておくと、その後の対応や進め方がしやすくなるのではないかと考えています。せっきやく地域公共交通計画を作りますので、私もプロポーザルの選考委員になるようですが、コンサル任せではなく、地域の状況をきちんと反映した南アルプス市ならではの地域公共交通計画を作れるように皆さんのご協力をいただければというふうに思います。

それともう一つ、せっきやくやったことはちゃんと知ってもらう必要があります。例えばコミュニティバスの応援定期券。これは考え方としては、市民の皆さんに応援してもらう、つまり市のコミュニティバスを必ずしも自分が使うわけではないけれども、このくらいの値段の年間定期券だったら一人一枚持っていてもいいんじゃないかと、そういうような意味合いの応援の定期券だと思います。ですから、そよかぜ号のサポーターの考え方と同じようなものを、全市に広めたのがコミュニティバスの定期券だと思えば、もっともっとこれを知ってもらって、コミュニティバスを市民に定着させる。あるいは、長く続けるために自分たちも協力するんだという意識を持ってもらえるようなものに、もっともっと周知を図る必要があると思います。せっきやく先進的な取り組みですので、十分定着できるように、これからも努力をしていきたい。この周知を図るといえるのは、やる側での情報の広げ方によってかなり違いができてきますので、事務局中心に市の方で、そこは努力をしていただくとともに、ここにいらっしゃる関係者の皆さんもこういうものがあって、これがコミュニティバスを将来につなげていくものなんだということをぜひ広めていただければと思います。雑駁ではありますが、感じたことを申し上げました。以上です。

《 事務局 》

ありがとうございました。事務局といたしましても、周知、広報に努力して取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

10. 閉会

《 事務局 》

それでは、閉会でございます。閉会の言葉を篠原副会長をお願いいたします。

《 副会長 》

今日はお忙しい中お集まりくださりまして、誠にありがとうございました。南アルプス市の実情とプロポーザルをおこなって、行政にいろいろ提案していただいて、委員の皆様方にこれからについてもっとこうした方がいいんじゃないかといった形の会議ということで、第1回をなさっていただいたような次第でございます。

この南アルプス市特有の実情を把握した中で、一番今後の交通利用者は交通弱者だと私

は思っています。その方々にいかに喜んでいただき、素晴らしい南アルプス市特有の交通網体系というのが、それが自立できるかというのが、皆様方で徹底的に協議して今後やっていきたいと感じております。

以上で第1回南アルプス市地域公共交通会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

《 事務局 》

次回は8月頃に第2回地域公共交通会議を開催予定です。

開催の際には、基本方針についてお示しして、その後どのように取り組んでいくかをご協議していただきたいと思いますので、またよろしく願いいたします。

本日は長時間にわたりましてありがとうございました。